

令和2年度 ユネスコスクール活動実践

千葉県立佐倉南高等学校

本校は「できることからはじめよう」を活動の合言葉に、「今まで実施してきた取組をさらに発展させていく」こと、それを「後世に伝えていくこと」を目指し、E S Dの実践を通して、地域で活躍する人材の育成に取り組んできた。具体的には、交流、地域貢献を柱に、①学校・文化交流に関わる活動、②地域貢献・ボランティア活動に関わる活動を行ってきた。

しかしながら、今回はコロナウイルスの影響で、活動方法の再検討が求められた。

①学校・文化交流に関わる活動

本校には、印旛特別支援学校さくら分校が併設されており、学校間の交流が行われている。体育祭やお互いの文化祭への参加、合同避難訓練など実施している。部活動間でも、交流の機会を設けている。また、さくら分校が制作したパンの販売が定期的に行われており、生徒間の交流につながっている。高大連携事業としては、近隣の大学と連携し、大学主催のプレゼンテーションコンクールや公開授業への参加、教育実習生の受け入れ等を行っている。

しかしながら、今年度は、文化祭や体育祭、各交流事業の中止が相次ぎ、例年のような関わり合いの機会を設ける事ができなかった。今年度は、校内での交流や教員間の連携が主な活動となった。

②地域貢献・ボランティア活動に関わる活動

例年、地域貢献活動として、地域の催し物に参加したり、文化祭を通じて、地域で活動している団体と連携を図るなどしている。ボランティア活動としては、学校全体の取り組みとして、毎年地域清掃を学期に一度実施しており、通学路を中心に清掃活動を行っている。

今年度は、地域に出向いての活動が制限されたことから、校内でのリサイクル活動や清掃活動に力を入れて実施した。小集団での活動に限定されたが、限られた環境の中で自分たちでできることを探し活動する大切さを学ぶ事ができた。